

「新学習指導要領と教員養成」の共同研究について

鈴木そよ子

1. 共同研究の活動について

神奈川大学湘南ひらつかキャンパスでは、2002年度から小・中学校で、2003年度から高等学校で実施される新学習指導要領と教職課程のあり方を考える共同研究を開始した。

メンバーは、中学校・高等学校の教員として「数学」「理科」「商業」「情報」を担当している、同キャンパスの卒業生、教職課程専任教員（関口昌秀・鈴木そよ子）から成る。専任教員が軸となりながら、参加する卒業生については共同研究の開始時点で限定することなく、希望者が途中からでも参加できるオープンな性格の共同研究とする。継続的に研究会を持ち、それぞれの研究・実践について報告と検討を重ねる。

この共同研究の成果は、『神奈川大学 心理・教育研究論集』にそれぞれの単独執筆論文あるいは共同執筆論文として発表していくと同時に、「教職に関する科目」の授業運営や、中学校・高等学校の教育実践に還元できるものにしていきたい。

具体的な検討内容については、共同研究の基本テーマ「新学習指導要領と教職課程」のもとで、詰めていくことになるが、特に核になるコンセプトは、新教科「情報」、総合的学習、教科内容、授業方法、カウンセリングマインド、大学・高等学校の連携等であり、学校現場においても、教員養成現場においても共通する問題を取り上げていく。

2. 第二回報告について

今回は、第二回の成果発表として、富士市立

吉原商業高等学校講師平井延佳氏の「理科（生物・化学・物理）の授業方法について」を報告する。

平井氏は、キャンパスの三期生として1995年3月に卒業し、コンピュータ会社勤務を経て、出身県である静岡県高等学校で理科教員として6年の勤務経験を持っている。この間、複数の学校での授業実践を重ねながら、教科内容の基本を押さえつつ、生徒にとっていかに分かりやすく身近な授業をするかということを考え、多方面からの情報を収集し、変化のある授業展開を工夫している。

2001年度には、キャンパスでの教職課程科目「教育実践の研究Ⅰ」において、これから模擬授業をする3年次生を前にして、平井氏に講演をしていただいた。その反響が大きく、3年次生の模擬授業も平井氏の授業展開のポイントを意識したものになり、後輩たちにとってもいい影響を与えてくださった。このような背景があり、本研究会での検討対象となった。多くの授業実践の中の一部をここでの報告としている。

3. 今後の方向性

1990年度に湘南ひらつかキャンパス（当時、平塚キャンパス）教職課程が設置されてから、「商業」「数学」「理科」の免許を取得して卒業した学生は、353名。うち、約30%が教職についている。

卒業後の個人的な情報交換を越えた、教職課程と卒業生の学校との協力体制を模索していきたい。